

平成27年度第7回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成27年11月24日（火） 午後2時30分から午後4時10分まで
- 場 所： 京都市立京北病院 2階大会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 桑原 安江, 大森 憲, 位高 光司, 山本 壯太,
木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 山本経営企画局次長, 長谷川事務局担当部長, 高橋経営企画課長,
竹内総務課長
京北病院 由良院長, 正木副院長, 畑看護部長, 北川事務長

1 開会

2 報告等

(1) 平成27年度上半期報告について

(2) 経営状況月次（10月分）報告

- 総合情報システムの更新により、市立病院の病床稼働率の低下が見られたが、回復の見込みは立っているのか。
 - ・ 現在では、総合情報システムの影響はほとんどないと考えている。8月、9月は入院予定患者が少なく回復が遅れていたが、下半期に入ってから入院待ちの患者が大幅に増えてきている。ベッドの回転を良くしていくことで、平均在院日数が短くなり、診療収入の増収につなげていきたい。
- 地域の医療機関へのPRが功を奏してきたのか。
 - ・ まだ紹介率そのものに大きな変化は見られないが、地道な訪問活動が下半期の増収につながると考えている。
- 当法人の中期計画では、特に入院患者中心の診療により、入院収益を増やすことを目標に掲げているが、現在は外来収益に支えられている面がある。計画目標に沿うよう、入院収益をしっかりと確保していきたい。
- 資料1-2において、上半期で目標を達成できている項目が少ないように思うが、設定目標が過大ではないのか。
 - ・ 目標を低く設定すれば、目標達成は容易になるが、高い目標を掲げてそれに向かっていくという法人としての姿勢を示す必要があり、それに対応した年度目標及び中期目標を立てている。
- 様々な目標項目があると思うが、一番のターゲットは黒字の達成である。そのためには、コスト削減が大きなポイントとなるが、これまでの報告ではその部分が見えにくい。
 - ・ コスト意識をもって経営を行って行くことは大変重要である。医業収益に占めるコストとして、人件費が55%程度、材料費が25%程度となっている。そのうち、材料費については、診療行為が増えて収益が上がるにつれて材料費も増加することになるが、この仕組みの中で材料費の支出を抑えていくことが重要である。材料費の削減に当たっては、調達に係る価格コストの引下げ、後発医薬品への積極的な切替えを進めている。

- 総合情報システムの更新は収益の向上につながるものなのか。それとも、コスト削減につながるものなのか。
- ・ 更新によって、直接的に収益の向上につながるものではない。しかしながら、新しいシステムの機能を駆使することで、医療者がより本業に集中できるようになった面はある。また、直接的に人件費等のコスト削減につながるものでもない。
- ・ 新しいシステムでは、経営に必要な各種データを取りやすくなっており、それを活用してコスト削減につなげていくことが考えられる。現に病床稼働率の状況を抽出し、各診療科に提示している。
- システムトラブルは起こっていないのか。
- ・ 更新から3か月程度は各種不具合が発生していたが、現在はほぼ収束している。
- 「ダ・ヴィンチ」など市立病院が誇れる点を積極的にPRして欲しい。
- ・ 当院が有している高い医療技能をPRするため、市民向けパンフレットだけでなく、開業医向けのパンフレットでも「ダ・ヴィンチ」の特集を組んでいる。また、来年2月には、「ダ・ヴィンチ」に関するフォーラムを開催する予定である。
- 京北病院の10月次の病床稼働率が低下しているが、病院に何か原因があるのか。それとも病院側では如何ともしがたい外的要因によるものなのか。
- ・ 入院基準を変更したり、外来患者数が極端に減った等の事情はないことから、病院内部に原因があるのではない。外的要因だと思うが、明確な分析はできていない。
- 京北病院の10月の一般病床利用率は55.2%となっているが、京北地域で死亡者が多かった等の人口変動があったのではないか。
- ・ 詳細は把握できていないが、10月に限って多くの患者が亡くなったとは考えにくい。
- ・ 市立病院では7割以上の患者が予定入院であるが、京北病院の場合、大部分が緊急入院で占められている。10月は患者の状態が比較的安定しており、入院患者数が少なかったことが一因であると考えられる。
- ・ 9月・10月は急激な気候変動も少なく、全体的に受診患者が減る傾向にあった。

(3) 「患者様送迎バス運行開始式典」の開催について

- 法律上の運送許可等は得ているのか。
- ・ 京都運輸支局に確認したところ、無料バスであり、定点間を移動するのみであるため、運送許可は不要である旨の回答を得た。また、バス停もないため、道路占用許可も不要である。
- バスがどこで発着するか利用者が分かるように、停留所等はあるのか。
- ・ 停留所はないが、バスが発着する地点をしっかりと周知する。
- 左回りのルートは考えなかったのか。
- ・ 左回りの場合、西院駅や丹波口駅で信号を横断していただく必要があり、手間がかかることから、時計回りのルートとした。
- 送迎バスのために渋滞することはないか。
- ・ 渋滞のおそれはないと考えている。交通局とも協議済みである。

- 四条壬生川付近にも発着場所を設けないのか。阪急四条大宮駅に近く、多くの方に利用してもらえるのではないか。
- ・ 市立病院の患者は京都市西部（右京区，西京区，長岡京市）在住が多い。阪急電車で来院される場合，西院駅を利用される。

(4) イメージキャラクター愛称決定について

(5) 京北地域における急性期の医療ニーズについて

- 京北病院の医師は，京北地域におけるかかりつけ医としての役割を担うことになるのか。また，かかりつけ医は入院を前提にしていないのか。
- ・ ご質問のとおりである。また，かかりつけ医は一般的に外来と訪問診療が対象である。
- 昨今，かかりつけ医の役割が重要視されている。京北病院の医師は，身近なかかりつけ医としての役割も担っていくことが求められている。

- 京北病院に産科はないのか。
- ・ 産科は設置しておらず，出産する場合は市内中心部の産科で出産するケースが多い。

- 京北地域の福祉関係者から，ここ1年ぐらいで京北病院と地域・福祉との連携が進んでいるとの声を聞いている。

- ひとつの専門だけでなく，京北地域の住民一般のニーズに幅広く応えていき，予防から治療に至るまで理解の深い献身的な医療サービスが必要である。市立病院としても京北地域の医療を守っていく責任が課せられていると認識している。
- これまでは京北病院を「支援」しているという意識が根強いが，今後はこの意識を変えていきたい。

3 閉会